



米子市埋蔵文化財センターたより



第11号

2013年12月

堅穴系横口式石室から f 字形鏡板付^{くつわ}轡が出土

— 観音寺狼谷山遺跡 —



出土した f 字形鏡板

東宗像 21号墳の堅穴系横口式石室

観音寺狼谷山遺跡の発掘調査も最終段階となり、標高79mの山頂にある帆立貝式の小古墳・東宗像21号墳の発掘を進めていたところ堅穴系横口式石室と呼ばれる埋葬施設が発見されました。この石室は堅穴式石室に横口の入口を付けた構造で、北部九州に多くみられることから北部九州にその系譜があると考えられています。鳥取県内では近隣の東宗像古墳群で2基、東伯郡で3基発見されています。

石室は長さ2.5m、幅0.6m、高さ0.6mの細長い形で、床には小礫が敷き詰められました。横口は扉石で塞がれていましたが、天井石が2枚を残して壊され盗掘を受けていました。幸いにも副葬品が残存しており、石室奥の床面から馬具のf字形鏡板付きの轡、辻金具、鉄鏃、滑石製の小玉が発見されました。f字形鏡板付轡も朝鮮半島から北部九州を経て広がった馬具で、山陰では6例目の発見となりました。石室の形や馬具からみて、この古墳に葬られた人は北部九州と何らかのつながりがある豪族であったと推察されます。

観音寺狼谷山遺跡の発掘調査は、21号墳のほか箱式石棺を埋葬施設とした東宗像22号墳、古墳時代の堅穴住居跡、段状遺構、戦国時代の戸上山城の一部と考えられる郭群など幅広い時代の遺構を確認し、12月末をもって現地発掘調査を終える予定です。(小原)

発掘調査情報

赤彩された埋葬人骨を発見

こしきさん
—越敷山古墳群—

前号でお知らせした越敷ノ原地区の調査は、直径 10m の円墳である越敷山 70 号墳をほぼ掘り終えることができました。この古墳からは、組み合わせ式の石棺 1 基を検出し、その内部から性別不明の人骨が 1 体出土しました。

人骨は、左腕や足先の部分が風化により消滅していましたが、頭部に赤い顔料を塗った状態が確認できました。人骨の年齢は不明ですが、歯がすり減っていることから、かなり高齢の人物と思われます。この石棺内には礫が敷かれ、平石を利用した枕がありました。その他には副葬品はありませんでした。

人骨に赤い顔料を塗る行為は、平成 24 年度に調査された越敷山 51 号墳でも同様の事例が確認されており、当時一般的に行われていた習俗と考えられます。(佐伯)



越敷山 70 号墳の人骨

整理室たより

整理室では報告書作成作業と共に、現在発掘中の遺跡の洗浄・注記・復元作業を行っています。また、現場で脆弱遺物が出土した場合は、その応急処置をします。今回、東宗像 21 号墳から出土した鉄鏃や馬具などの鉄製品は、これ以上の腐食を食い止めるためアルコール洗浄後、脱酸素剤を封入し、密封処理を行います。さらに破損を防ぐために台座を作り、本体を嵌めこんでいきます。その後、本格的な保存処理に回されていきますが、作業員さん達は出土遺物の状態に応じた一次処理を迅速に行い、日々、埋蔵文化財を守ってくれています(濱野)



鉄製品の応急処置作業

遺跡シリーズ 1 1 諏訪西山ノ後遺跡 (すわにしやまのうしろいせき)

諏訪西山ノ後遺跡は、米子市南部の長者原台地の東側の標高45mの丘陵台地に立地する遺跡です。1981年に県営圃場整備、1999年に電話基地建設、2004年に国道改良工事に伴い発掘調査されました。1981年の調査では古墳時代前期の竪穴住居跡と奈良時代の掘立柱建物跡、胎衣埋納遺構などが発見されました。胎衣埋納遺構は土師器甕の中から鋤先、刀子、和銅開珎、墨挺が納められており、奈良時代の貴族の風習がこの地にも及んでいたことを物語ります。2004年の発掘調査では、旧石器時代のナイフ形石器、弥生時代の貯蔵穴、弥生時代～古墳時代の竪穴住居跡、古墳など集落と墳墓の遺構などが発見されました。なかでもナイフ形石器の発見は、米子市に於ける旧石器時代遺跡の初めての発掘調査となり、長者原台地に暮らした人達の歴史が2万数千年前に始まったことがわかりました。また、旧石器時代から奈良時代の遺跡が密集するこの丘陵地が、古代の人たちにとって最適な生活地であったことを物語っています。



出土の和銅開珎

コラムー古墳時代遺跡を掘る ⑦古墳時代中期 ー長砂第3遺跡ー

1998年、東山公園整備事業に伴い発掘調査されたこの遺跡は、米子市長砂の山稜斜面に立地する弥生時代から古墳時代の集落遺跡です。竪穴住居跡30棟と掘立柱建物跡12棟や段状遺構などが調査されました。主な遺構は古墳時代中期から後期にかけての竪穴住居跡で、急な斜面に造られており、丘陵地に造成された現代の新興住宅地に似かよった集落跡の風景です。発掘調査で注目されたのは、珠文鏡という青銅鏡が出土したことと、古墳時代中期(1500年前)の古式須恵器が多数出土したことです。これらの遺物が集落遺跡から出土したことは、当時貴重品であった青銅鏡を所有し、また須恵器という当時の最新の土器を使った生活をしてきたことを物語り、長砂第3遺跡の人たちは、当時の先進的で豊かな暮らしをしていたことが窺えます。(小原)



出土した珠文鏡

センター・資料館日誌

- 10月6日 考古学講座第3回「博労町遺跡－砂丘でくらしただち」を開催した。
- 10月8日 南部町学習講座へ「南部バイパスの遺跡」講演講師を派遣した。
- 10月16日 鳥大生卒論資料調査で来館された。
- 10月24日 出雲古代歴史博物館仁木氏が埴輪資料調査で来館された。
- 10月28日 福市考古資料館企画展「発掘調査速報展」が終了した。
- 11月10日 「石造物探訪ウオーカー皆生・上福原地域」を開催した。



- 11月14日 荒神谷博物館の平野氏が山陰形甕の返却で来館された。
- 11月22日 日本原子力研究機構の研究員が遺跡出土鉄製品の錆化資料調査で来館された。
- 11月23日 山陰中世土器検討会が埋文センターに於いて開催された。
- 11月27日 島大院生が修論の埴輪資料調査で来館された。
- 12月1日 北陸学院大学小林教授が土器ススコゲ資料調査で来館された。
- 12月8日 講座「出土品学習教室」を埋蔵文化

財センターで開催した。

- 12月9日 白鳳の丘展示館共催事業「上淀廃寺壁画展」が終了した。

- 12月15日 観音寺狼谷山遺跡の現地説明会が開催された。



編集後記

夏の猛暑が終わり短い秋を通り越して、早くも冬将軍がやってきて、センターのイチョウの木もすっかり葉を落とし寒い日が続きます。

発掘現場作業も、天候の安定しない冬へ向かってラストスパートの時期となっています。現場へ向かう職員は寒さに負けず頑張る日々が続きます。

発行日 平成25年12月20日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 (一財) 米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp

